

個別の指導計画（就学前）

令和△年度

個別の指導計画（4月～9月）

〇〇幼稚園・保育園・こども園

氏名	会津 〇〇	男	在籍学級	4歳児
		・	担任氏名	□□ □□
		女	支援員名	◇◇ ◇◇

本人・保護者の願い	
本人	お友達と仲良くしたい。 ・やりたいことや困っていること、自分の気持ちを言葉で伝えられるようになってほしい。
保護者	・行事のときなどに、見通しをもって落ち着いて参加できるようになってほしい。

長期目標	〇集会活動や行事などの集団活動に見通しをもって参加できる。	年度末までに達成できそうな目標にする。幼児の視点で設定する。
------	-------------------------------	--------------------------------

合理的配慮	【教育内容・方法】・注目を促してから話す。 ・慣れない活動を予定しているときには、事前に活動場所を見せ、何をどのくらい行うのか伝えておく。	【支援体制】 ・学級で使用する写真や絵カードは、担任、副担任、支援員で統一する。 ・行事や集団活動では、支援員が個別に補足説明したり、取り組み方を示したりする。 【施設・設備】 ・一斉指導のときには、遊具や玩具の棚のカーテンを開め、視界に入らないようにする。 ・座席は、掲示物が視界に入りにくい位置にし、隣に支援員がついたり、モデルになるような幼児を配置したりする。	個別の教育支援計画から転記。 幼児の困り感を軽減するために、大人が行う配慮を記入します。

	Step1 子どもの姿	Step2 短期目標	Step3 具体的な援助・手立て ★担任の役割★支援員の役割	Step4 評価	
	設定した期間の終了時に記入します。達成状況や課題を整理します。				
健康	・運動遊びは年齢相応にできるが、不注意の傾向があるため、危険回避が難しいことがある。 ・偏食。少量ずつ盛りつけると、食べられることが増えている。 ・定時排泄で日中は下着で過ごせる。	○予定表や手順表を見ながら、支援員と一緒に集会活動や行事に参加できる。	☆予定表は活動をイメージしやすい絵と平仮名文字で表し、ホワイトボードに掲示し、朝のお集まりで知らせる。 ☆活動の始まりに予定表を見せる。	○登園すると、ホワイトボードを見て確認する様子が見られた。苦手な活動があるときは、繰り返しやり方を聞くことがある。	
関係人間	・朝のお集まりは、5分ほどならば支援員の先生と一緒に参加できる。 ・大人が仲立ちすることで、簡単なルールのある遊びを友達と一緒にできるようになってきた。 ・誕生会や〇〇集会など、大きな集団での活動や、初めての活動では、落ち着かず、途中で教室に戻ってしまう。	実態に応じて、長期目標の達成に向けて、半年程度で達成できる目標とします。例として複数挙げていますが、実態に応じて生活全般にかかる内容を1つか2つ程度設定します。		○支援員と一緒にカードで確認することで、最後まで参加できることが増えている。 ▲大きな音が出る活動では、落ち着かなくなることがあるため、事前にどんな音が出るのか知らせる必要があった。	
環境	・生き物に興味をもち、積極的に世話をすると、夢中になると終了時刻に活動を終えることが難しい。 ・友達が遊んでいる玩具に次々に興味をもち、試そうとする。1つの玩具で落ちちぎて遊べる時間はまだ短い。	○「～へ行きたい。」「～をしたい。」「～ほしい。」など、言葉で気持ちを伝える。	☆行事のときの座席や並び方の配置について、本人の安心できる場所を確かめる。 ★場所や遊具の写真カードから、行きたいところ、やりたいものなどを選ぶ機会を設け、「～へ行きたい。(したい。)」と一緒に担任の先生に伝える。	○落ち着きたいときなどに、カードを見せてほしいと求めるようになった。支援員と一緒に、担任の先生に「～へいきたい(したい。)」と伝えることができるようになってきた。	
言葉	・思い通りにならないときに、友達を押す、ほしい玩具を黙ってとってしまうなどすることもあるが、教師がモデルを示すと「かして」「一緒に遊ぼう」など、言葉で伝えようとすることが見られる。 ・時計やカレンダーの数字、友達の名前に興味をもち、何と書いてあるのか質問することが見られる。自分の名前が見て分かる。	○名前を呼ばれたときには、話し手に注目できる。	☆一斉での指示を出すときに、名前を読んで注目したことを確認してから話す。 ★気づかないときに、注目を促す。担任の話の後に、何をするのか理解状況を確認し、補足説明する。	誰が、どの場面でどのようなかかわりをするのか、具体的に記入します。手立てとして、使用するツールや使い方など、複数の目で、共通理解を図って設定するようにします。	
表現	・絵を描いたりつくったりすることを好み、様々な色や形を試して取り組むことができる。 ・絵具や粘土、砂遊びなど、直接、手で触れて汚れるような素材には、苦手意識がある。 ・歌詞を覚えたり、イメージしたことを言葉で表現するには時間がかかるが、動きを真似たり、リズムに合わせて踊ったりすることができる。	課題となっていることに偏らず、できていること、対象児の良さもわかるように記入します。今年度の作成時の様子を記入します。			